



# 大森六中だより

令和2年 6月号  
大田区立大森第六中学校  
校長 松尾 廣文  
TEL 3726-7155

## 「ESDの子への期待」

6月22日



学校が再開され、3週間がたちました。この間、慣れない分散登校で、皆さんも不安もあったことと思いますが、冷静に行動をしていたことを嬉しく思います。

3年生は、落ち着いて学業に励む姿を見て、六中の顔という自覚が育っていることを感じました。もともと高い学力をもつ学年ですので、この後の学校生活も進路選択、決定に向けて残された時間を有意義に使うことを望みます。

また、2年生は、昨年に比べ、慣れが気になる学年なのですが、これも、ざわつきがなく、極めて冷静に学校生活を再開していることに、本当に感心をしています。

学力から言っても、歴代の卒業生に全く引けを取らない生徒たちなので、本年度中に、学習の遅れを挽回できると感じています。

そして、1年生。卒業から入学まで、不安定な時期を過ごしてしまいましたが、混乱なく、入学式も終了できたことに安堵をしています。

入学式の式辞でもお話をしましたように、大森六中は、ユネスコスクールとして、世界の課題に向き合う学習、ESDに取り組むという大きなチャンスにあふれた学校です。本校の学習で大きく心も体も成長することを期待しています。

今回の新型コロナウイルスに関しては、皆さん様々な体験をし、考えたことと思います。

2か月遅れの入学式を行っているときに思ったことですが、式次第の多くが省略を余儀なくされ、本来ならば、校旗入場の場面だとか、校歌披露の場面なのになとか、色々思うところがありました。

「今頃、本当は、何々をしていた頃なのに」という考えは、癖のようになり、この春からずっと、皆感じていることではないでしょうか。

しかし、過ぎ去った時間は戻ってきません。機会を失った出来事も、やり直すという訳にはいかないものの方が、圧倒的に多いと思います。

今、私たちは、そんなちょっと切ない思いを胸に、前を向いて進んでいます。

今、ここにいることにまず感謝をしましょう。

新型肺炎で苦しんだ方、亡くなった方が信じられない数になっています。

(世界の感染者 712 万人、亡くなった方 40 万人 6/9 時点 アメリカ・ジョンズ・ホプキンス大まとめ)

新型肺炎は、持続可能な社会作りの難しさ、大切さを改めて考える契機になったと思います。

SDGs 3「すべての人に健康と福祉を」は、我々の身近で切実な問題であることが、皆さんにも分かったことと思います。

この教訓が新しい未来につながっていくよう、ESDの子どもたちである大森六中生の成長に期待をしたいと思います。

# 入学式

6月8日に入学式が行われました。その時の様子です。



希望を胸に、97名の1年生が入学しました。これからの3年間。とても楽しみです。



各クラスの様子です。この教室からスタートですね。

## 2、3年生分散登校

6月1日(月)から分散登校が始まりました。毎朝の健康確認や座席の工夫、こまめな手洗い、消毒など学校でも感染防止に努めています。登校後、手洗いをし、教室で健康カード提出してから、授業が始まります。お互いに社会的距離を意識しながら、久しぶりの友達との再会を喜ぶ姿がありました。クラス全員教室に揃う日が待ち遠しいです。



## 給食開始

6月10日(水)より給食が始まりました。感染予防のため、しばらくの間は教員が配膳を行っています。以前は班で机を合わせながらの給食でしたが、現在は全員前を向いた状態で静かな給食となっています。給食の献立や食育だよりは学校HPにも掲載されているので、ぜひご覧ください。



# 持続可能な社会の担い手づくり

大田区立大森第六中学校 研修ユネスコ委員会

## 正解のない問い

6月1日より、学校が再開しました。8日(月)には入学式が行われ、晴れて1年生も六中の一員となりこれからの活躍が期待されます。

本校がユネスコスクールで、どのような活動をしているのか、どのような学びがどのようなことにつながるのか、例年だとオリエンテーションがあり、徐々に六中生としての自覚が生まれてくるものですが、2か月休業期間があり、その猶予はなく、授業が始まっています。本来なら、6月は運動会があつて3年生のリーダーシップや団結の様子から、憧れや希望を抱き、成長していくのですが、おそらく例年のようにはいかないと思われま

す。新型コロナは、当然地球にとって新たな型のウイルスで、専門家といわれる人たちにとっても、国家を左右する判断を迫られ、過去のデータや現象から類推し、仮説を立て、それに基づく開発を行っています。要するに何が正しくて、何が間違っているのかわからないことが起きているのです。

我々地球市民が突き付けられた正解のない問いに、挑戦し続け、判断を下していかなければならないのです。

六中では、今後起こりうる災害や困難に立ち向かうための持続可能な社会のための担い手づくり(ESD)を行っています。正解が1つではない、正解がないかもしれない課題を解決するための力を育てています。それが、思考力・判断力・コミュニケーション力です。3年間の学びの中であらゆる角度から見つめ、主体的に学び、人との対話、教師との対話、自己との対話の中で、学びをより一層深めるための教育です。



## 思考力とは

思考力とは、ものごとの解決方法は1つではなく、様々な考え方を取り入れ、より良い解決方法を見出す力であり、お互いの考えの共通点や相違点を理解し、共感したりしながら解決していく力であると我々は考えています。

## 判断力とは

六中では、判断力を身につけさせるために、生徒が主体的に判断する場面を設定しています。よりよい未来を創造するための努力を行うことで、判断力が身につくと考えています。

## コミュニケーション力とは

コミュニケーション力とは、課題を解決するために必要な能力で「表現する力」「聞く力」「発想する力」が大切であると考えています。表現するためには、既存の知識や情報が必要です。相手の話を理解するためには聞く力が必要です。そしてアイデアや工夫によって発想力が生まれ、新たな解決策が見出せます。

## 学ぶ態度と姿勢

持続可能な社会のためには、「進んで参加する態度」「他者と協力する態度」「つながりを大切に

### ホタル放流式

校舎内で9か月間飼育したホタルの幼虫を洗足池に放流します。例年だと7月下旬の20時ごろには光を放ち、その淡い光を楽しむことができます。夜、洗足池に立ち寄ることができれば、探してみてください。

放流式日時:6月17日(水)16:30~

放流場所:洗足池水生植物園